

### 第3回 洋上風力発電調査研究協議会 議事メモ

日時：令和4年11月28日（月）15：00～17：00

場所：いちき串木野市防災センター

#### ■参加者

#### ●委員

串木野市漁業協同組合 代表理事組合長	早崎 達哉
鹿児島県漁業協同組合 串木野市島平支所 支所運営委員長	迫田 洋則
羽島漁業協同組合 代表理事組合長	平石 良博
市来町漁業協同組合 代表理事組合長	大久保 光朗
いちき串木野市まちづくり連絡協議会 本浦地区まちづくり協議会長	大里 章裕
いちき串木野市まちづくり連絡協議会 支え合う川南みんなの会長	米園 仁志
いちき串木野市地域女性団体連絡協議会 会計	小原 文子
いちき串木野市地域女性団体連絡協議会 川南地区部長	宇都 トミ子
いちき串木野商工会議所 会頭	川崎 弘一
甕島商船(株) 取締役海務部長	石原 義三
南薩砂利(株) 代表取締役	北山 和博
鹿児島県エネルギー政策課 主幹兼係長	石塚 大地
いちき串木野市 副市長	出水 喜三彦
いちき串木野市 企画政策課長	北山 修
いちき串木野市 水産商工課長	後潟 健太郎
いちき串木野市シティセールス 課長	長崎 崇
いちき串木野市 都市建設課長	吉見 和幸
いちき串木野市 市民生活課長	久保 さおり

#### ●事務局

いちき串木野市 企画政策課 企画政策課長補佐（兼）エネルギー・企業立地係長	大平 博喜
いちき串木野市 企画政策課 主任	十島 航

#### ●委託事業者

株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 グループリーダー	齋藤 大樹
株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 主任	五十嵐 知宏
株式会社建設技術研究所 東京本社資源循環・エネルギー部 技師	松田 知夏
株式会社建設技術研究所 九州支社鹿児島事務所 所長	深町 耕史

#### ■欠席者

NPO 法人鹿児島いちき串木野観光物産センター 理事長	久木山 睦男
-----------------------------	--------

1. 開会
2. 挨拶
3. 講話

委員

いちき串木野市は台風が多いが、浮体式洋上風力に台風の影響はないのか。また洋上風力向けのエリアが日本では12ha位からスタートするとのことだったが、港湾に隣接した土地が必要ということか。

講師

台風は洋上風力発電事業を実施するうえでのデメリットではあるが、高い精度で予測する手段もあることから、洋上風力発電設備の設計・工夫で十分対応可能である。エリアについて現在は12haで考えられているが今後はもっと広がっていく。一箇所に集中させるのか分散させるのかは未定。港に近い方が良いが新しく港湾を造成するという方法でもそれほどコストは変わらないのではと考えている。

#### 4. 協議事項

##### ① 先進地視察結果報告について

特になし

##### ② 各種調査等の結果について

特になし

##### ③ ゾーニングマップの作成について

委員

11月24日に開催された分科会にて、ゾーニングマップ(案)に対して漁協からの意見は述べている。意見を基に本協議会の資料が作成されていることは述べておきたい。いちき串木野市の洋上風力事業者は着床式で進んでいるようであるが、さまざまな懸念事項を回避するためには浮体式にして沖の方にはどうかと考えており、事業者には今後提案していきたいと考えている。

事務局

本市海域における事業者の計画は主に着床式であり、事業者の計画にどのように対応していくかといったところを主に調査・協議している。広い視野はもちつつ、ゾーニングマップや利権関係者との話し合いなどを進めていくところである。

委員

ゾーニングマップにも海砂事業を反映していただいております。30年間の海域占用後、洋上風力発電の関連設備の完全な撤去がなされないなどのリスクもあるのではないかと考えており、将来的なことも記載できたらよいのではないかと考えています。

事務局

30年後の予測は難しい部分が多いが、可能な限り想定しうる変化に

についても反映したい。制度上では30年間の占有後は基本的に全撤去が原則である。秋田県漁協との意見交換会でも同様の質問がなされたが、秋田県漁協でも30年後は想定しきれないと回答があったと認識している。

## 5. その他

【事務局より国の新たな動向としてグリーンイノベーション基金事業の基本方針（概要）資料についての情報提供】

事務局	鹿児島県として何か補足情報などがあればご提供いただきたい。
委員	本事業を活用した事例は県として特に把握はしていない。

## 6. 閉会

以上